

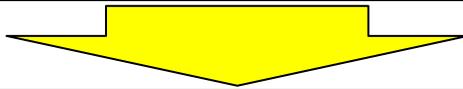
指導展開編

小・中・高等学校の保健学習等における指導の展開例

- 1 小学校の展開例
(6年保健領域 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康)
- 2 中学校の展開例
(3年保健分野 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康)
- 3 高等学校の展開例
(入学年次科目保健 薬物乱用と健康)
- 4 薬物乱用防止教室における意特色ある取組の実践例

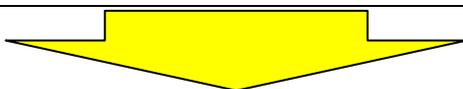
小学6年生

(3) 病気の予防	エ 喫煙 飲酒 薬物乱用と健康	(ア)	(イ)
		<p>○ 喫煙については、せきが出たり心拍数が増えたりするなどして呼吸や心臓のはたらきに対する負担などの影響がすぐに現れること、受動喫煙により周囲の人々の健康にも影響を及ぼすこと。</p> <p>* 喫煙を長い間続けると肺がんや心臓病などの病気にかかりやすくなるなどの影響があることについても触れるようにする。</p> <p>○ 飲酒については、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなるなどの影響がすぐに現れること。</p> <p>* 飲酒を長い間続けると肝臓などの病気の原因になるなどの影響があることについても触れるようにする。</p>	
		<p>* 低年齢からの喫煙や飲酒は特に害が大きいことについても取り扱うようにし、未成年の喫煙や飲酒は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙や飲酒を開始する場合があることについても触れるようにする。</p> <p>* 薬物の乱用については、シンナーなどの有機溶剤を取り上げ、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすこと。</p> <p>* 薬物の乱用は法律で厳しく規制されていることにも触れるようにする。</p>	



中学3年生

(4) 健康な生活と疾病の予防	ウ 喫煙 飲酒 薬物乱用と健康	(ア) 喫煙と健康	(イ) 飲酒と健康	(ウ) 薬物乱用と健康
		<p>○ 喫煙については、たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れること、また、常習的な喫煙により、肺がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなること。</p> <p>○ 特に、未成年者の喫煙については、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいこと。</p> <p>○ 飲酒については、酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害を起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあること。</p> <p>○ 常習的な飲酒により、肝臓病や脳の病気など様々な病気を起こしやすくなること。</p> <p>○ 特に、未成年者の飲酒については、身体に大きな影響を及ぼし、エチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいこと。</p>		
<p>○ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があること。</p>				



高校1年生

(1) 現代社会と健康	イ 健康の保持増進と疾病の予防	(イ) 喫煙、飲酒と健康	(ウ) 薬物乱用と健康
		<p>○ 喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること。</p> <p>* 周囲の人々や胎児への影響などにも触れるようにする。</p> <p>○ 喫煙や飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対策が必要であること。</p> <p>* 好奇心、自分自身を大切にする気持ちの低下、周囲の人々の行動、マスメディアの影響、ニコチンやエチルアルコールの薬理作用などが、喫煙や飲酒に関する開始や継続の要因となることにも適宜触れるようにする。</p> <p>○ コカイン、MDMAなどの麻薬、覚せい剤、大麻など、薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して様々な影響を及ぼすので、決して行ってはならないこと。</p> <p>○ 薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であること。</p> <p>* 薬物乱用の開始の背景には、自分の体を大切にする気持ちや社会の規範を守る意識の低下、周囲の人々からの誘い、断りにくい人間関係、薬物を手に入れやすい環境などがあることにも適宜触れるようにする。</p>	

1 小学校の展開例（6年保健領域）

(1) 単元名 病気の予防 「病気の起こり方」 エ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康

(2) 単元目標

- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。【関心・意欲・態度】
- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について教科書や資料を基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりすることができる。【思考・判断】
- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、理解したことを言ったり書いたりできる。【知識・理解】

(3) 指導と評価の計画

時間	学習内容と活動	学習活動における具体的評価規準
1	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙には、せきが出る、心拍数が増えるなど呼吸や心臓の働きに負担をかけるというすぐに現れる影響や、肺がんや心臓病などにかかりやすくなるなど長い間続けると現れる影響があること。受動喫煙により、周囲の人々の健康に影響を及ぼすこと。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喫煙の規制について考える。 2 受動喫煙について知る。 3 喫煙の害について教科書を見てワークシートにまとめる。 4 喫煙をはじめめるきっかけを知り、誘われた自分、好奇心がわいた自分を想定して、自分に対してメッセージを書く。 	<p>【思・判】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、教科書や資料を基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりしている。 <p>【知・理】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒の行為が身体に影響を与えること、低年齢からの常習的な喫煙は特に害が大きいこと、未成年者の喫煙は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙、飲酒を開始する場合があることについて、言ったり、書いたりしている。
2	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒は、判断力が鈍る、呼吸や心臓が苦しくなることがあるなどのすぐに現れる影響や、肝臓などの病気の原因になるなど長い間続けると現れる影響があること。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 飲酒の害について知っていることを話し合う。 2 飲酒の害について教科書を見てワークシートにまとめる。 3 未成年の飲酒が法律で禁止されていることとその理由を知る。 4 「もうすぐ中学生だから少し飲めよ」、「今日はお祝いだから一ぱい飲んでみないか」という誘いに反対した意見をワークシートに書く。 	<p>【関・意・態】（観察）（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒、物乱用と健康について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。 <p>【知・理】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒の行為が身体に影響を与えること、低年齢からの常習的な喫煙は特に害が大きいこと、未成年者の喫煙は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙、飲酒を開始する場合があることについて、言ったり、書いたりしている。

	<p>【学習内容】</p> <p>○ シンナーなどの有機溶剤は、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けていると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすこと。</p> <p>【学習活動】</p> <p>3 1 身近にある有機溶剤について知る。 2 薬物の所持、乱用は法律で禁止されていることを知る。 3 薬物乱用の害について教科書を見てワークシートにまとめる。 4 喫煙、飲酒、薬物乱用の学習のまとめとして、未来の自分に対して手紙を書く。 5 書いた手紙を発表する。</p>	<p>【関・意・態】（観察）</p> <p>○ 喫煙、飲酒、薬物乱用について、教科書や資料を見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>【知・理】（ワークシート）</p> <p>○ 薬物乱用については、一回の乱用でも死に至ることがあり、乱用を続けていると止められなくなり、心身の健康に深刻な影響を及ぼすことについて、言ったり、書き出したりしている。</p>
--	---	--

(4) 授業展開（3時間扱いの1時間目「喫煙の害」）

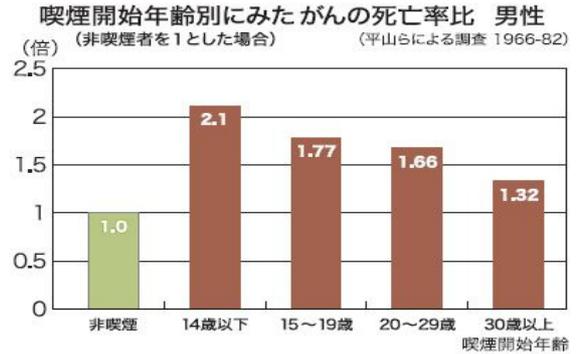
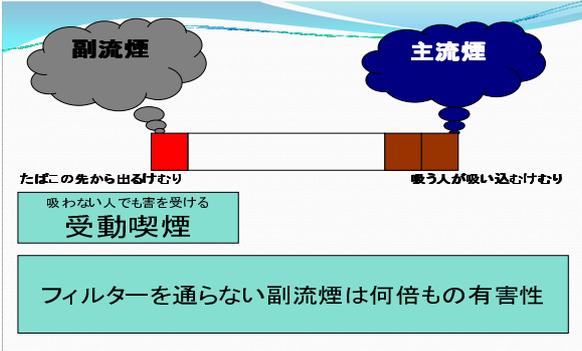
【本時のねらい】

喫煙が心身の健康にどのように影響するのかを理解するとともに、喫煙を勧められたり、好奇心がわいたりした場合に、学んだ知識と自らの意志をもって対処する。

段階	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価規準と方法
導入 5分	○ 単元の学習内容について確認する。	○ 本時のねらいを簡潔に説明する。	
展開 35分	<p>【学習内容】 喫煙には、せきが出る、心拍数が増えるなど呼吸や心臓の働きに負担をかけるというすぐに現れる影響や、肺がんや心臓病などにかかりやすくなるなど長い間続けると現れる影響があること。受動喫煙により、周囲の人々の影響を及ぼすこと。</p> <p>○ 禁煙マークの写真を見て、どこで見たか、どのような場所で規制されているかを発表する。</p> <p>発問1 なぜ、たばこを吸ってはいけないところがあるのでしょうか。</p> <p>○ 受動喫煙について知る。</p>	<p>・ レストラン、駅、海水浴場</p> <p>・ 共通して人が集まる場所に多くあることに気づくよう助言する。</p> <p>・</p> <p>・ 掲示物をもとに副流煙の害について説明する。</p>	<p>【知識・理解】 喫煙・飲酒の行為が身体に影響を与えること、低年齢からの常習的な喫煙は特に害が大きいこと、未成年者の喫煙は法律によって禁止されていること、好奇心や周りの人からの誘いなどがきっかけで喫煙・飲酒を開始する場合があることについて、言ったり、書き出したりしている。（観察・ワークシート）</p>

	<p>発問2 たばこを吸うと体にどんな影響があるでしょうか。</p> <p>○ たばこの害について、教科書を見て、ワークシートにまとめる。</p> <p>○ まとめたことを発表する。</p> <p>○ 板書をもとにワークシートをまとめる。</p>	<p>・ ワークシートを配る。</p> <p>・ 体への影響（短期間で出る、長期間で出る）について板書する。</p> <p>・ 低年齢からの喫煙は特に害が大きいこと、未成年の喫煙が法律で禁止されていることについて説明する。</p>	
<p>展開 35分</p>	<p>【学習内容】 学んだ知識をもとに自分の健康は自分で守るという意識を高めること。</p> <p>○ たばこを吸いはじめるきっかけについて知る。</p>	<p>・ 仲間からの誘い、好奇心による場合が多いことを説明する。</p>	<p>【思考・判断】 喫煙・飲酒・薬物乱用と健康について、教科書や資料を基に、課題の解決の方法を見付けたり、選んだりするなどしてそれらを表している。 (ワークシート)</p>
	<p>発問3 誘われた自分、好奇心がわいた自分に対してメッセージを書いてみよう。</p> <p>○ 自分が誘われたとき、好奇心がわいたときを想定してメッセージを書く。</p> <p>○ メッセージを発表する。</p>	<p>【つまづいている児童への手立て】</p> <p>・ ワークシートや板書を参考にしてメッセージを書くよう助言する。</p> <p>・ 机間指導しながら、発表者を決めていく。</p>	
<p>まとめ 5分</p>	<p>○ 次時の学習内容を知る。</p>	<p>・ 次時は、飲酒の害について学習することを伝える。</p>	

【本時授業で使用する資料及びワークシート】



きつえん

喫煙の害ワークシート

じゅうどうきつえん



○たばこの煙は、近くにいる人々にも影響を及ぼす。 受動喫煙

○たばこを吸うと体にどんな影響がでるでしょう。

[]

○わかい時期からたばこをすいはじめると・・・

[]

○未成年の喫煙は [] で禁止されています。



自分が誘われたとしたら？ 好奇心をもってしまったとしたら？
～今日学んだことを生かして！自分にメッセージを書こう～

2 中学校の展開例（3年保健分野）

(1) 単元名 健康な生活と疾病の予防「喫煙、飲酒、薬物乱用と健康」

(2) 単元目標

- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、課題の解決に向けてワークシートに記入したり、発表をしたり、仲間と意見交換したりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 【関心・意欲・態度】
- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について、資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見付けたり、選んだりすることができる。また、学習したことを自分たちの生活に当てはめることができる。 【思考・判断】
- 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康について理解したことを言ったり、書き出したりできる。 【知識・理解】

(3) 指導と評価の計画

学習内容と活動		学習活動における具体的評価規準
1	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喫煙の害による影響の資料（肺がん死亡率、喫煙開始年齢と心臓病死亡率等）からわかることをワークシートに書き出した後、班内で発表し合い、意見交換をする。 2 未成年者の喫煙の害について、ワークシートにまとめる。 	<p>【思・判】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を元に予想したり整理したりして、問題を見付け、解決の方法を選んでいる。 <p>【知・理】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ たばこの煙の中にはニコチン、タール及び一酸化炭素などの有害物質が含まれていること、それらの作用により、毛細血管の収縮、心臓への負担、運動能力の低下など様々な急性影響が現れることを言ったり、書き出したりしている。 ○ 常習的な喫煙により、肺がんや心臓病など様々な病気を起こしやすくなることを言ったり、書き出したりしている。 ○ 未成年者の喫煙では、身体に大きな影響を及ぼし、ニコチンの作用などにより依存症になりやすいことを言ったり、書き出したりしている。
2	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 飲酒は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 飲酒による体への影響について、二者択一あるいは○×形式等の問題（プレゼンテーション）を解き、解答と解説を聞く。 2 未成年者の飲酒の害について、ワークシートにまとめる。 	<p>【関・意・態】（観察）（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間とともに活動したり、自分の意見を発表しようとしたりしている。 <p>【知・理】（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 酒の主成分のエチルアルコールが中枢神経の働きを低下させ、思考力や自制力を低下させたり運動障害を起こしたりすること、急激に大量の飲酒をすると急性中毒を起こし意識障害や死に至ることもあることを言ったり、書き出したりしている。 ○ 常習的な飲酒により、肝臓病や脳の病気など様々な病気を起こしやすくなることを言ったり、書き出したりしている。 ○ 未成年者の飲酒については、身体に大きな影響を及ぼし、エチルアルコールの作用などにより依存症になりやすいことを言ったり、書き出したりしている。

3	<p>薬物乱用と健康</p> <p>【学習内容】 ○ 薬物乱用は、心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となること。</p> <p>【学習活動】 1 薬物標本に触れ、「薬物」の言葉から連想することを書き出し、それを班内でカテゴリ一別に分ける。 2 薬物乱用経験者の手記を読み、薬物乱用が社会へ与える影響について、話し合う。</p>	<p>【関・意・態】（観察）（ワークシート） ○ 自分の意見や考えを發表しようとしている。</p> <p>【知・理】（ワークシート） ○ 覚せい剤や大麻の摂取によって幻覚を伴った激しい急性の錯乱状態や急死などを引き起こすこと、薬物の連用により依存症状が現れ、中断すると精神や身体に苦痛を感じるようになるなど様々な障害が起きることを言ったり、書き出したりしている。 ○ 薬物乱用は、個人の心身の健全な発育や人格の形成を阻害するだけでなく、社会への適応能力や責任感の発達を妨げるため、暴力、性的非行、犯罪など家庭・学校・地域社会にも深刻な影響を及ぼすこともあることを言ったり、書き出したりしている。</p>
4	<p>手たばをば出さな酒い薬め物に</p> <p>【学習内容】 ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為には、個人の心理状態や人間関係、社会環境などが影響することから、それぞれの要因に適切に対処する必要があること。</p> <p>【学習活動】 1 喫煙、飲酒、薬物乱用の行為の原因について考える。 2 喫煙、飲酒、薬物乱用に関する話を聞き、ワークシートにまとめる。</p>	<p>【思・判】（ワークシート） ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を行わないための行動について、学習したことを日常の生活に当てはめている。</p> <p>【知・理】（ワークシート） ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを言ったり、書き出したりしている。</p>

(4) 授業展開（4時間扱いの4時間目 「たばこ・酒・薬物に手を出さないために」）

【本時のねらい】

喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを言ったり、書き出したりしている。

段階	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価規準と方法
導入5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りをする。 ○ 前時のワークシートを見て学習した内容を確認する。 ○ 本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問答をしながら思い起こさせ、分からない場合は、班で相談しながら考えられるよう支援する。 ○ 本時のねらいを簡潔に説明する。 	

<p>展開 30分</p>	<p>【学習内容】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを言ったり、書き出したりしている。</p>	<p>【知・理】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為は、好奇心、なげやりな気持ち、過度のストレスなどの心理状態、周囲の人々の影響や人間関係の中で生じる断りにくい心理、宣伝・広告や入手のし易さなどの社会環境などによって助長されること、また、それらに適切に対処する必要があることを言ったり、書き出したりしている。(学習カード)</p>
	<p>発問 1 喫煙・飲酒・薬物乱用の害やおそろしさを知りながら、また、法律で禁止されていることを知りながら、それでもなお、それらに手を出してしまう人がいるのはなぜでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ たばこ、酒、薬物等に手を出してしまう原因をブレインストーミングでより多く付箋に書き出す。 ○ 付箋で出されたものを、模造紙に貼り、グループで話し合いながら要因ごとに分類する。 ○ 分類したら要因（見出し）を書き入れ、班ごとに発表する。 ○ 喫煙、飲酒、薬物乱用の行為の原因について、先生から話を聞き、ワークシートにまとめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いついたものを、数多く書き出すよう指示する。 ・ 分類は、グループで話し合える雰囲気づくりをする。 ・ 薬物乱用の開始には、薬物の害知識がないことだけではなく、断る対処能力が不十分であったり、心理状況も関係していたりしていることに気付かせるような支援をする。 ・ 前時で行った、薬物乱用における心身及び社会的影響を振り返らせながら説明する。 <p>発問 2 次のような喫煙・飲酒・薬物乱用に関する話を読んで、グループで自由に意見を出してみよう。</p> <p>ケース 1：喫煙に関する話 ケース 2：飲酒に関する話 ケース 3：薬物乱用に関する話</p> <p>この中からグループごとに1つ選び、各話とそれに関する間を題材にして、自由に意見を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由に意見や感想を言い、互いの考えに触れることによって、自己の思考をふかめられるよう支援する。 <p>【つまづいている生徒への手立て】 話し合いに参加できない生徒には、発問したり、具体例を挙げたりして、意見が出せるようにする。</p>	
<p>まとめ 15分</p>	<p>発問 3 グループでの話合ったことから、わかったことや、これからこうしていこうということを学習カードに書いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返り及び本単元の振り返りを学習カードに記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を通して学んだことや感じたこと、また、これから自分がどう生活していくか等の課題も記入するよう助言する。 	<p>【思・判】 喫煙、飲酒、薬物乱用などの行為を行わないための行動について、学習したことを日常の生活に当てはめている。(ワークシート)</p>

<指導の工夫>

- 喫煙、飲酒、薬物乱用のきっかけとなる要因について、**ブレインストーミングとカードによる分類**を行うことで、思考を促します。
- 喫煙・飲酒・薬物乱用に関するテーマについて**グループディスカッション**をします。それぞれが自分の意見をもって発言し、また、その発言内容についての自分の考えを述べ合うことで、思考力の向上を図ります。

【喫煙・飲酒・薬物乱用に関する話し合いの題材例】

ケース 1

Aさんは、先輩にすすめられたのをきっかけに大学の3年生からたばこを吸い始めました。社会人になり、これまで何度か禁煙をしようとしてきましたが、会社で仕事の合間になると気分転換で吸いたくなってしまい、どうしても辞めることができません。しかし、最近は、会社内ではたばこを吸うことができなくなり、自ずと吸う本数も減らざるを得なくなってきました。そこで、これを機会に今度こそ禁煙しようとして真剣に考えるようになりました。

- Q 1 Aさんは、なぜ、たばこを吸い始めたのでしょうか。
- Q 2 Aさんが、これまでたばこをやめることができなかったのはどうしてでしょうか。
- Q 3 なぜ、会社内でたばこが吸えなくなったのでしょうか。
- Q 4 Aさんは、たばこをやめることができるのでしょうか。

ケース 2

最近、飲酒にかかわり重大な事故が多発しています。そのことを受けて、法律が厳しくなったり、警察の取り締まりが厳しくなったり、飲酒に対する社会全体の目が厳しくなってきました。一方では昔から「酒は百薬の長」といわれ、適量の酒は健康に良いとも言われています。しかし、法律では、未成年の飲酒は禁止されています。

- Q 1 飲酒による重大な事故には、どのようなものがあるのでしょうか。
- Q 2 なぜ、飲酒は、それらの重大な事故を引き起こすのでしょうか。
- Q 3 今後、さらに厳しい法律や警察の取り締まりをしていけば飲酒による事故はなくなるのでしょうか。
- Q 4 「酒は百薬の長」と呼ばれているにもかかわらず、なぜ、未成年の飲酒は、法律で禁止されているのでしょうか。

ケース 3

またしても大学生による大麻事件が発覚した。大学生の場合、興味半分で大麻に手を染めるケースが少なくないが、それが怖い。

今年上半期で、大麻関連での逮捕者は1,202人で、去年同期より12%も増えている。年間の逮捕者が最も多かったのは平成18年の2,288人。今年はそれを上回る最悪のペースになっている。そのうちの65%は10代、20代の若者だ。大学のキャンパス内で売買していたケースもあった。

- Q 1 大麻関連の逮捕者が増加しているのは、どうしてでしょうか。
- Q 2 逮捕者の約2/3が、10代、20代の若者なのは、どうしてでしょうか。
- Q 3 他の薬物より毒性の弱い大麻を、なぜ使用してはいけないのでしょうか。
- Q 4 一人の大麻の使用によって、どのような問題が生じるのでしょうか。

中学生での喫煙、飲酒、薬物乱用経験は、決して少ない数字ではありません。中学生の時期は、まず正しい知識と、「なぜやってはいけないのか」の「なぜ」の部分について科学的な理解が図れるようにします。また、知識を単なる「覚えるための知識」で終わらせることなく、自分のこととしてとらえられる実感を持った知識を身に付ける必要があります。そうすることで、保健学習で求められる、行動化への意欲と態度の育成が図られると考えられます。実践では「薬物乱用経験者の手記」を読ませたり、「薬物標本」を見せたりしていますが、その他に道徳や学級活動等と関連させ、セルフエスティーム（自尊感情）や規範意識を高める取組を、同時期に行うことで、効果をねらうなどの工夫を考えましょう。

3 高等学校の展開例（入学年次科目保健）

(1) 単元名 現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防

(2) 単元目標

- 健康の保持増進と疾病の予防について、課題の解決に向けてワークシートに記入したり、仲間と意見交換したりするなどの参加型の学習に取り組もうとしている。
【関心・意欲・態度】
- 健康の保持増進と疾病の予防について、資料等で調べたことを基に課題や解決の方法を見つけたり、選んだりすることができる。また、学習したことを自分たちの生活や事例などにあてはめて、筋道を立ててそれらを説明している。【思考・判断】
- 健康の保持増進と疾病の予防について理解したことを言ったり、書き出したりできる。
【知識・理解】

(3) 指導と評価の計画

(12時間扱い 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関する4～7時間目を抽出)

時間	学習内容と活動	学習活動における具体の評価規準
4	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒は、生活習慣病の要因となり健康に影響があること。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちの身のまわりでの喫煙・飲酒の現状や問題点についてグループで話し合いながらワークシートにまとめる。 2 喫煙・飲酒が自分以外にどんな影響をもたらすのか、自分の意見をまとめ、グループ内で発表する。 	<p>【関・意・態】(観察)(ワークシート) 喫煙、飲酒がもたらす個人への影響について、話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【知・理】(ワークシート)(観察) 喫煙、飲酒による健康への影響について、疾病との関連、周囲の人々や胎児への影響、社会に及ぼす影響があり、適切な意志決定と行動選択が必要であることについて、言ったり、書き出したりしている。</p>
5	<p>【学習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 喫煙、飲酒による健康課題を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観の育成などの個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対応が必要であること。 <p>【学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 喫煙、飲酒による社会的な問題についてグループごとにワークシートにまとめる。 2 喫煙、飲酒による健康課題や防止するために大切なことをキャッチコピーとしてまとめ、発表する。 	<p>【知・理】(ワークシート) 喫煙、飲酒による健康課題を防止するためには、個人への働きかけ、及び法的な整備も含めた社会環境への適切な対応が必要であることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【思・判】(ワークシート)(観察) 喫煙、飲酒について、学習したことを基に、健康課題や防止するために大切なことをまとめ、発表している。</p>

6	<p>【学習内容】</p> <p>○ コカイン、MDMA などの麻薬、覚せい剤、大麻など薬物の乱用は、心身の健康、社会の安全などに対して様々な影響を及ぼすので、決して行ってはならないこと。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1 薬物乱用の心身や社会への影響についてグループで話し合いながらワークシートにまとめる。</p> <p>2 薬物乱用が自分以外にどんな影響をもたらすのか、自分の意見をまとめ、グループ内で発表する。</p>	<p>【関・意・態】(観察)(ワークシート) 薬物乱用の心身や社会への影響について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>【知・理】(ワークシート)(観察) 薬物乱用の心身や社会への影響と、薬物乱用は決して行ってはならないことについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p>
7	<p>【学習内容】</p> <p>○ 薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であること。</p> <p>【学習活動】</p> <p>1 薬物乱用に関わる社会的な問題についてグループごとにワークシートにまとめ、発表する。</p> <p>2 薬物乱用に関わる課題や防止するために大切なことを政策提言としてまとめ、発表する。</p>	<p>【知・理】(ワークシート) 薬物乱用を防止するためには、社会環境への対策が必要であることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。</p> <p>【思・判】(ワークシート)(観察) 薬物乱用について、学習したことを基に、課題や防止するために大切なことをまとめ、発表している。</p>

(4) 授業展開 (12 時間扱い—喫煙、飲酒と健康・薬物乱用と健康に関する 7 時間目を抽出)

【本時のねらい】

薬物乱用を防止するためには社会環境への対策が必要であること、薬物乱用は決して行わないことを理解し、薬物乱用に関わる課題や防止するために大切なことをまとめた政策提言づくりを行い、社会の一員として、健康的な社会環境づくりへの意識を高める。

段階	学習内容と活動	教師の指導・支援	評価規準と方法
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返りをする。 ○ 前時のワークシートを見て学習した内容を確認する。 ○ 本時の学習内容を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時のねらいを簡潔に説明する。 	

	<p>【学習内容】 薬物乱用を防止するには、正しい知識の普及、健全な価値観や規範意識の育成などの個人への働きかけ、及び法的な規制や行政的な対応など社会環境への対策が必要であること。</p>	
	<p>発問 1 薬物乱用に関わる情報は、どこから入ってきますか。</p>	
	<p>○ 教師の発問に挙手で答える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の意見を黒板に板書する。 ・ 携帯サイトの危険性について触れる。
	<p>発問 2-1 薬物乱用に関わる新聞を読み、社会的な問題点が何か考えよう。</p>	
	<p>○ 薬物乱用についての社会的事件の新聞記事を読む。</p> <p>○ 事件についての意見をグループごとにワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事のコピーを配付する。 ・ 社会的な取り扱いについての視点を持つように伝える。
<p>展開 40分</p>	<p>発問 2-2 薬物乱用を防止するために、今の社会に対して求めることは何か考えよう。</p> <p>○ これまで学習した内容をもとに、社会の問題点について、グループごとにワークシートにまとめる。</p> <p>○ 薬物乱用を防止するために社会に対して求めることについて、グループごとにワークシートにまとめる。</p> <p>○ 意見を社会に発信していく方法を考え、ワークシート（政策提言）にまとめる。</p> <p>○ グループの意見を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬物乱用の開始の背景には、自分の体を大切にする気持ちや社会の規範を守る意識の低下、周囲の人々からの誘い、断りにくい人間関係、薬物を手に入れやすい環境などがあることにも触れる。 ・ 薬物乱用を防止するには、社会的な対策が必要であることに気付かせる。 ・ 社会の一員として、自らが社会に向けて発信することが大切であることを説明する。 ・ 今まで学習した知識をもとにした「政策提言」を考えるよう助言する。 ・ グループごとの発表に対して助言する。 <p>【つまずいている生徒への手立て】 話し合いに参加できない生徒には、発問したり、具体例を挙げたりして、意見が出せるようにする。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>発問 3 みんなが考える理想的な社会とは。</p> <p>○ 教師の発問に挙手で答える。</p> <p>○ 自らの健康だけでなく、社会の一員として役立つことの必要性和、薬物乱用は決して行わないことを確認する。</p> <p>○ 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自らメッセージを発信することは、自分に責任を持つ必要があることを伝える。

【知・理】
薬物乱用を防止するためには、社会環境への対策が必要であることについて理解したことを言ったり、書き出したりしている。(ワークシート)

【思・判】
薬物乱用の防止について、学習したことをもとに、課題や防止するために必要なことをまとめ、政策提言として発表している。(観察)(ワークシート)

【本時授業で使用するプレゼンテーションソフト】

薬物乱用と健康

～マスメディアの影響～
新聞記事から考える

1

情報の入手先は？

- 薬物乱用に関わる情報は、どこから入手していますか。

配付プリント<1>に記入しましょう。

2

薬物乱用に関わる新聞記事を読んで…

- 薬物乱用に関わる社会的事件の新聞記事です。
- 事件についてどう考えるか、グループで話し合しましょう。

配付プリント<2>にまとめましょう。

3

社会的な問題点は何か？

- これまで学習した内容をもとに、薬物乱用に関わる社会の問題点について、グループで話し合しましょう。

配付プリント<3>にまとめましょう。

4

社会に対して求めることは？

- 薬物乱用を防止するために社会に対して求めることを、グループで話し合しましょう。

配付プリント<4>にまとめましょう。

5

意見を社会に発信する方法は？

- みんなで考えた意見を、社会に発信していく方法を考えよう。

配付プリント<5>にまとめましょう。

6

理想的な社会とは…

- これまで学習した内容をもとに、理想的な社会について…考えてみよう。

配付プリント<6>に記入しましょう。

7

大切なことは…

社会の(一員)として
(自ら)が社会に向けて
(発信)すること

8



【保健ワークシート】

1年()組 氏名 _____

<p>< 1 > 情報の入手先</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">友達、先輩、先生(授業)、携帯サイト、雑誌、新聞 等</p>
<p>< 2 > 新聞記事を読んで</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">身近な問題、なかなか止められない、法的規制を厳しくすべき 等</p>
<p>< 3 > 社会的な問題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">密売組織、密売サイト、暴力団、犯罪行為、借金 等</p>
<p>< 4 > 薬物乱用を防止するために</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">ネットパトロールの強化、正しい情報が欲しい、有害サイトや密売サイトをなくして欲しい 等</p>
<p>< 5 > 社会に発信する方法</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">学校のホームページに掲載する、文化祭のテーマとして取り組む、地元の広報誌やタウンニュース等でアピールする、看板作成 等</p>
<p>< 6 > 理想的な社会</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin-bottom: 5px;">予想される回答</div> <p style="margin-left: 20px;">(心と体の)健康のための社会的な取組、正しい情報提供、法的規制 等</p>

4 薬物乱用防止教室における特色ある取組の実践例

専門家との交流を重視した喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室の例

地域の専門家を講師として招いた「喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室」は多くの学校で開催されています。その場合、「講師が一方向的に話す」、「児童生徒が受け身的に聞くだけ」という展開では、大切な内容が伝わりにくかったり、児童生徒の記憶に残りにくかったりします。

喫煙・飲酒・薬物乱用防止という課題に対して、講師とやり取りをしながら話をしたり、一緒に考えていく教室にできるとさらに効果が上がると考えます。ここでは、交流を重視してより効果的に進める教室例をQ&Aで紹介します。

Q1 専門家と言われる方にはどんな方がいますか。

A 身近には、医師、薬剤師、警察官、少年補導員、薬物防止指導員、市健康課保健師、保健福祉事務所保健師、青少年補導員、青少年指導員、青少年相談室、等が考えられます。また、本冊子のP51に講師リストが載っています。

Q2 児童生徒の参加人数は、どのくらいがよいですか。

A 交流を重視した教室では、最大でもおおよそ100名くらいが限界と思われるので、学年単位で開催することが適切かと考えられます。また、小・中学校、中・高等学校、あるいは小・中・高等学校と合同で行うのもよいと思います。

Q3 教室の内容はどのようなことが考えられますか。

A 複数の、できれば10名くらいの講師（専門家）に来ていただき、一人の講師に対して10名ほどの児童生徒が質疑応答することで交流を図るようにします。専門家の方には、一方向的に話をするのではなく、できるだけ児童・生徒の質問に答えていただき、言葉のやり取りができるようにするとより交流が深まります。また、時間があれば2部制にして、二人の講師（専門家）と話せるようにしたり、話をしたい講師（専門家）を児童生徒自身が選べる様な工夫も考えられます。

Q4 その他には、どのような活動が考えられますか。

A 話をするだけでなく、歌を歌ったり、ゲームをしたり、各校の取組みを発表したりすることも考えられます。
※歌やゲームの例については、前回の指導資料（平成17年4月改訂）に掲載されていますので、参考にしてください。

Q5 参加者については、その他にはどのような方が考えられますか。

A 保護者や地域の方にも参加してもらえると、家庭や地域にも話の内容や影響が広がり、さらに効果的でよいと思われます。

Q6 効果としては、どのようなことが期待できますか。

A 交流を通して、講師（専門家）のいろいろな話を聞けるだけでなく、今後も挨拶を交わしたり、相談をしたいときに声かけられる関係をつくることができると思われます。これを機会に声を掛け合える関係が作れることは、児童生徒の後々にとっても大変意義があることと考えられます。

Q7 会場は、どのような設定で行うとよいですか。

A 教室や体育館等が考えられますが、体育館で行う場合には、ステージの上から下に向かって話すのではなく、下図のようにフロアで少人数で集まって話をするスタイルがよいでしょう。また、会場内に講師のプロフィールを掲示し、事前に児童生徒が見ておくと、お互いに話しやすくなり、さらに交流が深まると思います。

会場図の例（体育館）

